

精神分析入門(上)

フロイト / 高橋義孝・下坂幸三訳



新潮文庫

新 潮 文 庫

精 神 分 析 入 門

上 卷

フ ロ イ ト
高 橋 義 孝 訳
下 坂 幸 三



新 潮 社 版

2273

Title: VORLESUNGEN ZUR EINFÜHRUNG IN DIE
PSYCHOANALYSE

Author: Sigmund Freud



せいしんぶんせきにゆうもん
精神分析入門
上巻

定価 360 円

新潮文庫 赤 38 E

昭和五十二年一月三十日 発行
昭和五十四年六月三十日 七 刷

訳者

発行者

発行所

高橋 義孝
下坂 幸三
佐藤 亮一

株式会社 新潮社

郵便番号 一六二
東京都新宿区矢来町七一
業務部(〇三)(二六六)五一
電話 編集部(〇三)(二六六)五四二一
振替東京四一八〇八番

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが小社通信係宛ご送付
ください。送料小社負担にてお取替えいたします。

印刷・株式会社三秀舎 製本・加藤製本株式会社
© Yoshitaka Takahashi 1977 Printed in Japan
Kôzô Shimosaka

目次

序七

第一部 錯誤行為

第一講 序 論三

第二講 錯誤行為二五

第三講 錯誤行為(つづき)四四

第四講 錯誤行為(結び)七一

第二部 夢

第五講 種々の難点と最初のアプローチ一〇〇

第六講 夢判断のいろいろな前提と技法一三三

第七講	夢の顕在内容と潜在思想	一四二
第八講	小児の夢	一五八
第九講	夢の検閲	一七三
第十講	夢の象徴的表現	一八九
第十一講	夢の作業	二二六
第十二講	夢の分析例	二三四
第十三講	夢の太古的性格と幼児性	二五五
第十四講	願望充足	二七四
第十五講	不確実な点と批判	二九四

第三部 神経症総論

第十六講	精神分析と精神医学	三二二
第十七講	症状の意味	三三一

第十八講	外傷への固着 無意識	三三三
第十九講	抵抗と抑圧	三七〇
第二十講	人間の性生活	三九〇

解 説 下 坂 幸 三

新潮文庫

精神分析入門

上 卷

フロイト
高橋義孝 訳
下坂幸三



新潮社版

2273

目次

序七

第一部 錯誤行為

第一講 序 論三

第二講 錯誤行為二五

第三講 錯誤行為(つづき)四四

第四講 錯誤行為(結び)七一

第二部 夢

第五講 種々の難点と最初のアプローチ一〇〇

第六講 夢判断のいろいろな前提と技法一三三

第七講	夢の顕在内容と潜在思想	一四一
第八講	小児の夢	一五八
第九講	夢の検閲	一七三
第十講	夢の象徴的表現	一八九
第十一講	夢の作業	二二六
第十二講	夢の分析例	二三四
第十三講	夢の太古的性格と幼児性	二五五
第十四講	願望充足	二七四
第十五講	不確実な点と批判	二九四

第三部 神経症総論

第十六講	精神分析と精神医学	三二二
第十七講	症状の意味	三三二

第十八講	外傷への固着 無意識	三五三
第十九講	抵抗と抑圧	三七〇
第二十講	人間の性生活	三九〇

解 説 下 坂 幸 三

序

私がここに『精神分析入門』として公にする書物は、この学問領域に関する既刊の概説書（ヒッチェマン『フロイトの神経症論』〔第二版、一九一三年〕、ピイスター『精神分析の方法』〔一九一三年〕、レオ・カプラン『精神分析学綱要』〔一九一四年〕、レジ、エスナル共著『神経症と精神病の精神分析』〔パリ、一九一四年〕、アードルフ・F・メイエル『精神分析による神経症の治療』〔アムステルダム、一九一五年〕）と競い合おうとするものではない。本書は、私が一九一五年から一六年にかけて、および一九一六年から一七年にかけての二度の冬学期に、医師も非専門家も、男性も女性も加わった聴衆を前にして行った講義をそのまま再現させたものである。

序

読者の目につくと思われるこの著作の特異な点は、いずれもそういう本書成立の事情からきている。説明にあたって、私は学術論文の叙述に見られるような素っ気なさを保つことができなかった。むしろ講演者としての私は、ほぼ二時間にわたる講義の間、聴講者の注意力が鈍らないように心がけないわけにはいかなかった。その時その時の効果を顧慮したために、同じ論題を、ある時は夢の解釈と関連させて取り扱い、またあとになっては神経症の問題との関連においてとりあげるというように、やむをえず何回にもわたって論究することが避けられなかった。また材料の配列にしても、たとえば「無意識」のような二、三の重要なテーマは、一個所だけでは論じつくすことはできず、一度とりあげてはやめ、のちにふたたびこれを取りあげて、必要に応じて

さらに掘り下げて論ずる機会を待つというようにせざるをえなかつた。

精神分析に関する文献に通じている人ならば、本書よりもくわしい既刊書に記載されている事柄以上のものは、この『入門』中にはほとんど見出されぬことに気づかれるであろう。しかし、材料を整頓し、総括する必要上、著者はいくつかの項目において（たとえば不安の病因、ヒステリーの空想など）、いままで公表をさしひかえていたような材料をもとりあげた。

一九一七年 春 ヴィーンにて

フロイト

精神分析入門 上卷

第一部 錯誤行為